



## 「小さな女の子の大きな成長」～支援はするよりも減らすことが大切～



- 毎日、給食の時間になると、食物アレルギーの小学部2年生の可愛いMさんは、職員室に用意されている自分の給食を取りに来ます。6月までは担任の先生が汁物を、Mさんが残ったご飯やおかずをトレーで運んでいましたが、7月からは一人で運ぶことに挑戦しています。
- 給食は全てトレーに用意されているので、一度に運ぶことができます。しかし、Mさんの最大の敵は汁物です。まだ汁物をこぼさずに運ぶ体力と自信がありません。初めて一人で取りに来た日、Mさんは給食の前でしばらく考えた後、これまで先生が運んでいた汁物を最初に運びました。小さな両手でお椀を持って、教室まで約10メートルの距離をこぼさないようにゆっくり歩き始めました。職員室に戻ってきたMさん、次はこれまで運んでいた得意のトレーなので、「失礼しました」とお辞儀をする余裕が見られました。
- 私はMさんが給食を運ぶときに「気を付けてね」と応援していたのですが、途中から、「お汁をこぼさないで運んでね」、「友達にぶつからないように運んでね」と、私の思いを分かるように伝えました。その結果、「こぼさないで運べたね」、「ぶつからないで運べたね」と具体的にほめることができ、Mさんとの心の距離が一気に縮まったように思います。
- 小さなSさんの大きな成長を通して、支援はするよりも少しずつ減らしていく大切さを学びました。子どものできることを生かし、自分のことは自分でやるという意識を育てるために、「不要な支援をしていないか」、「支援を減らす工夫をしているか」を問い掛けながら、最小の支援で最大の成果を上げたいと思います。



かつの校 副校長 加賀谷 勝